

- ◆ 令和2年11月、熊本県知事は球磨川流域の治水の方向性として、命と清流を守る“緑の流域治水”を推進することを表明。
- ◆ 田んぼダムは、「緑の流域治水の推進と復旧・復興に向けた重点10項目」の中に位置付けられた。



(拡大図)



03

人吉・球磨地域田んぼダム効果等検証委員会の設置

目的

- ▶ 令和2年7月豪雨による人吉・球磨地域の甚大な被害を受け、球磨川流域の「緑の流域治水」の一環として、令和3年度から令和4年度の2年間、**球磨川流域の7市町村にモデル地区を設定**し、田んぼダム実証実験事業に取り組んだ。
- ▶ 田んぼダムの普及・拡大に向け、実証実験事業と合わせて田んぼダムの貯留効果等を客観的に検証するため、有識者で構成される第3者委員会を設置した。

検討事項

1. 田んぼダムによる**効果（貯留効果、ピークカット効果）**の検証。
2. 田んぼダム実施により**作物等に与える影響**の検証。
3. 田んぼダムの効果的な**普及・啓発手法**の検討。
4. 田んぼダムの取組みを**推進**するうえで必要な事項。

構成委員

氏名	分野	職業及び経歴（当時）
渡邊 紹裕	学識経験者 (かんがい排水学)	国立大学法人京都大学名誉教授・特任教授
濱 武英	学識経験者 (かんがい排水学)	国立大学法人京都大学農学研究科准教授
森田 敏	農業関係者 (国：研究機関)	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センター所長
岡村 文明	施設管理者 (土地改良区)	百太郎溝土地改良区 理事長
久保田 修	土地改良関係者 (行政・利水)	熊本県土地改良事業団体連合会 常務理事
太路 秀紀	報道関係者	株式会社熊本日日新聞社編集局 デジタル編集部次長兼編集委員

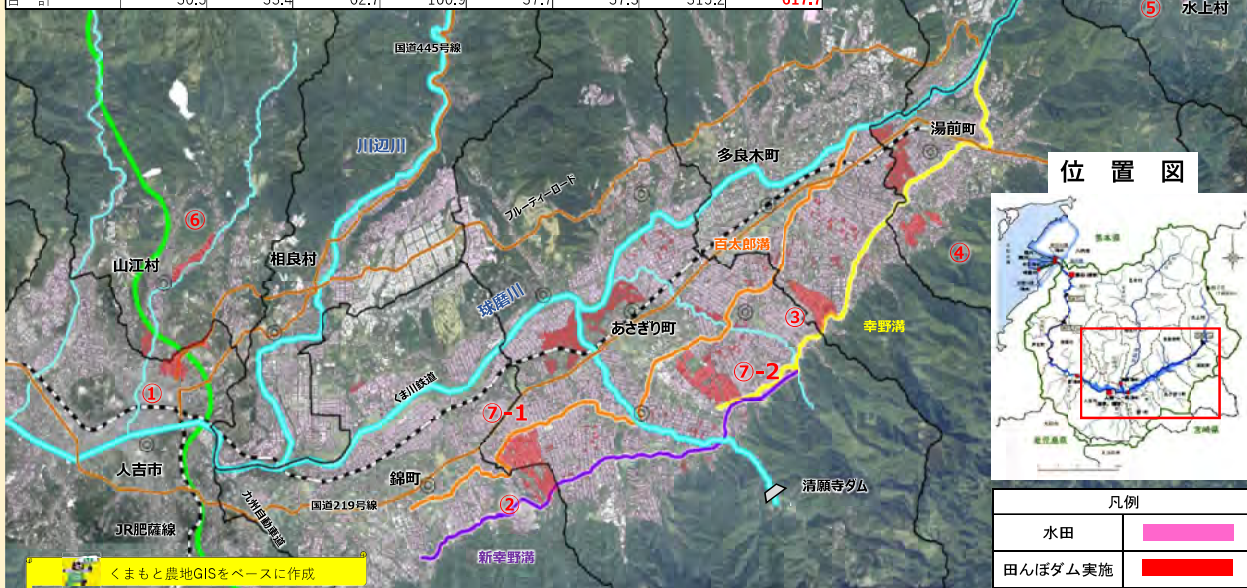
15

03

人吉・球磨地域における実証実験の取組み状況

田んぼダムの取組み面積（R6.1時点）

	①人吉市	②錦町	③多良木町	④湯前町	⑤水上村	⑥山江村	⑦あさぎり町	合計
モデル地区	30.5	29.4	31.5	30.0	17.4	20.7	103.8	263.3
モデル地区外	0	4.0	31.2	70.9	20.3	16.6	211.4	354.4
合計	30.5	33.4	62.7	100.9	37.7	37.3	315.2	617.7



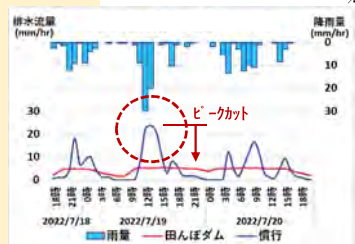
16

人吉・球磨地域田んぼダム効果等検証委員会からの提言

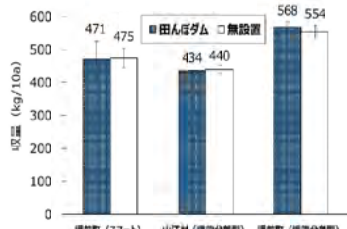
○実証実験の成果

- ◆ 最も雨量が多い時間帯において最大で約80%のピークカット効果を観測し、2回目以降についても安定した効果を発揮する結果であった。また、農作物への影響については「田んぼダム」の有無に関係なく生育収量に悪影響は及ぼさないことが確認された。このことにより、田んぼダムを**本格的に推進する基本的な条件**が整った。
- ◆ 一方で、既設排水樹の老朽化により、せき板の設置が不可能な箇所や経年劣化による畦畔高不足の箇所も見受けられた。

※今回、検証を行った降雨は時間雨量で2年に1回程度の降雨であり、全ての降雨に対して同様の効果が期待できるものではない。



(水田排水量調節効果)



(田んぼダムと水稻の収量)



(排水樹及び畦畔の課題)

○田んぼダムの展開方向

- ◆ 熊本県は、「田んぼダム」が、**地域を主体とした持続可能な住民参加型の取組み**となるようあらゆる関係者の連携のもと、**全県で普及・拡大に取り組むべき**である。



農業基盤が健全に保たれ
農業が継続して行われる



集落や土地改良区などの
地域で取り組む



住民参加型で地域の
多様な主体が参画する



持続可能な取組みとなる
仕組みづくりを



地域の連携や理解醸成に
向けて、情報発信を



県全域で田んぼダムの
普及・拡大に取り組む



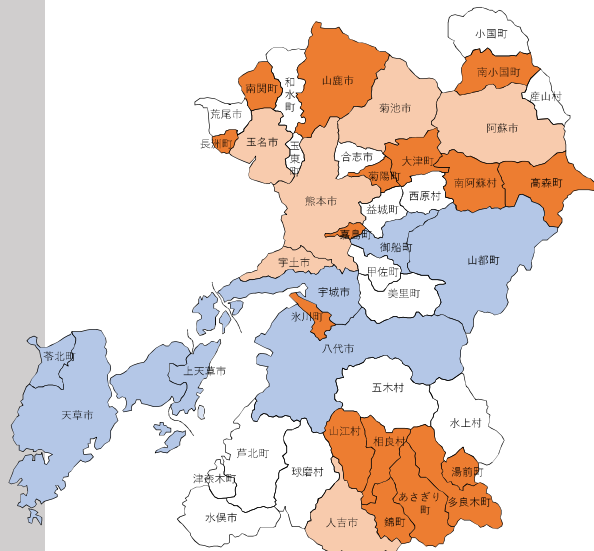
普及啓発用ポスター



地方紙への掲載

広域組織ひとつでたすけあう地域のちから・つながる未来

市町村毎の広域組織による対象面積割合



◆ 54広域組織が活動する対象面積は全体の
75%を占める。

◆ 広域組織のみで活動しているのは

16市町村／44市町村

(R5.農地維持)

	100%
	80%以上 ~ 100%未満
	50%以上 ~ 80%未満
	30%以上 ~ 50%未満
	30%未満
	広域組織なし

山鹿市の概要



■ 総面積 299.69 km²

■ 総人口 48,230 人
(令和6年6月末現在)

八千代座

明治43年(1910)に建てられた国の重要文化財で、現在も歌舞伎公演など多数行われている。



農産物

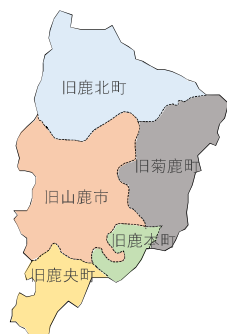
国内有数の産地である「たけのこ」と、西日本一の生産量を誇る栗などがある。

山鹿灯籠

毎年8月15日16日に開催される「山鹿灯籠まつり」は金灯籠を頭にのせた千人の女性達が優雅に舞い踊る。

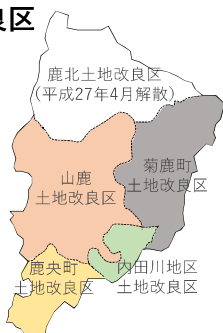


市町村合併



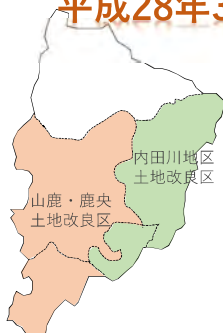
平成17年1月合併

土地改良区合併



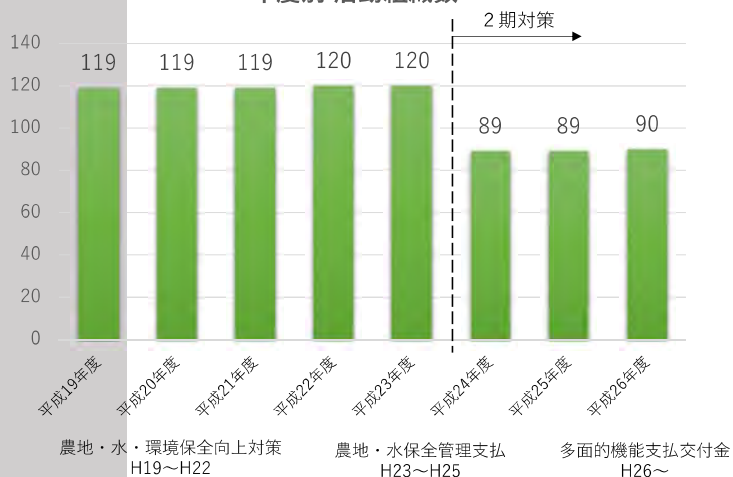
平成28年3月合併

令和3年3月合併



23

年度別 活動組織数



平成19年度

平成24年度



課題

- ◆ 集落に役員（会計）を担う人材がいない。
- ◆ 煩雑な事務処理のため。
- ◆ お金（交付金）の管理が面倒である。

対策

「活動組織の広域化」

- ◆ 複数の活動組織を一つの組織にまとめ、事務の効率化と組織体制の強化を図る。

24